

GLP-1製剤の大規模出荷調整に伴う 処方代替提案システムの構築と処方変更に至った一例

○飯田 誠之、森田 肇、村田 美佳、佐藤 聡太
株式会社 クリエイトエス・ディー



00. 要旨

- 【背景】社会問題になっているGLP-1受容体作動薬の出荷調整によって、弊社薬局グループ内の在庫移動をもってしても確保できないケースが発生し2型糖尿病の治療継続が脅かされている。
- 【症例】GLP-1受容体作動薬の在庫移動要請を行った薬局に対し、処方提案に必要な背景情報を収集し適切と考えられる代替薬と提案背景も含めて、担当調剤薬局に提供した。一例として、95歳男性、心不全、てんかんを合併しているフレイル傾向の男性の症例において、デュラグルチドからリナグリプチンへの代替を提案、処方変更となり治療の継続が達成された。
- 【考察】チェーンドラッグストアの強みを生かした出荷調整に対する処方提案の仕組みは、GLP-1受容体作動薬の不足問題に限らず、患者の治療継続の達成に有効であると考えられる。また、取り組みによって関わった症例を研修に活用することで、薬剤師の処方提案力の向上にも寄与できると考えられる。

01. 背景:GLP-1受容体作動薬の出荷調整

昨今、医薬品の大規模な出荷調整が常態化しており、糖尿病に関わる薬剤もその限りではない。特に、デュラグルチド、セマグルチド、チルゼパチド等においては**ダイエットおよび美容を目的とした自由診療による処方が増加し、納入実績のある糖尿病門前薬局でも在庫が消尽**するなど、2型糖尿病患者への供給が滞る事態となった。

弊社グループ薬局を利用する患者においても出荷調整の影響は大きく、デュラグルチドが出荷調整となった23年4月から9月までのデュラグルチド、セマグルチド、チルゼパチドの全店宛て在庫移動要請数は539kit、調剤不可となり処方箋を返却した患者は36名に上った。



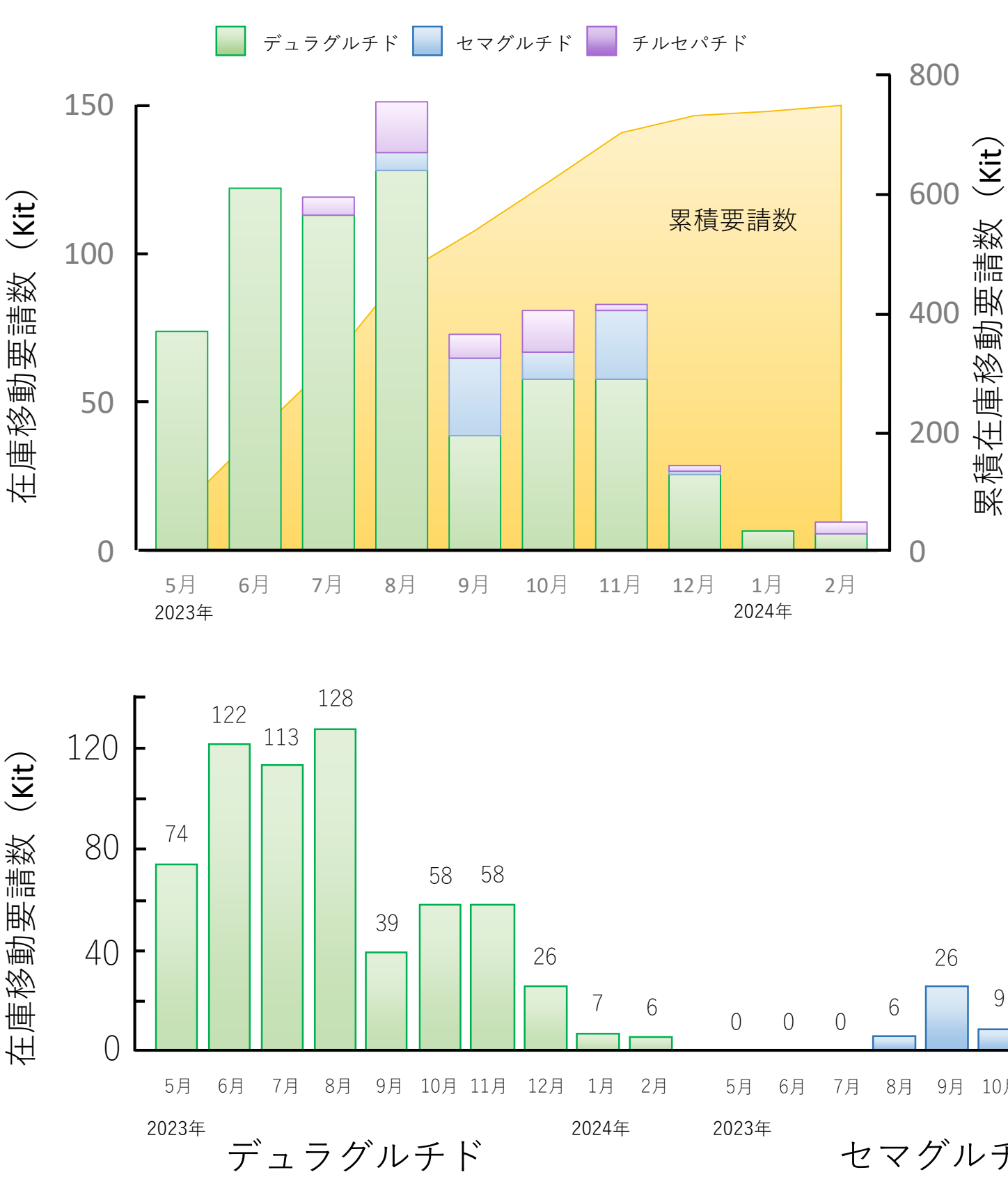
出荷調整

目的

- GLP-1受容体作動薬製剤と同等程度の治療継続
- 弊社の糖尿病相談チームが各個症例ごとに適切と考えられる処方変更を提案する仕組みの構築
- 薬剤師の処方提案力の醸成

02. 弊社薬局へのインパクト

在庫移動要請kit数

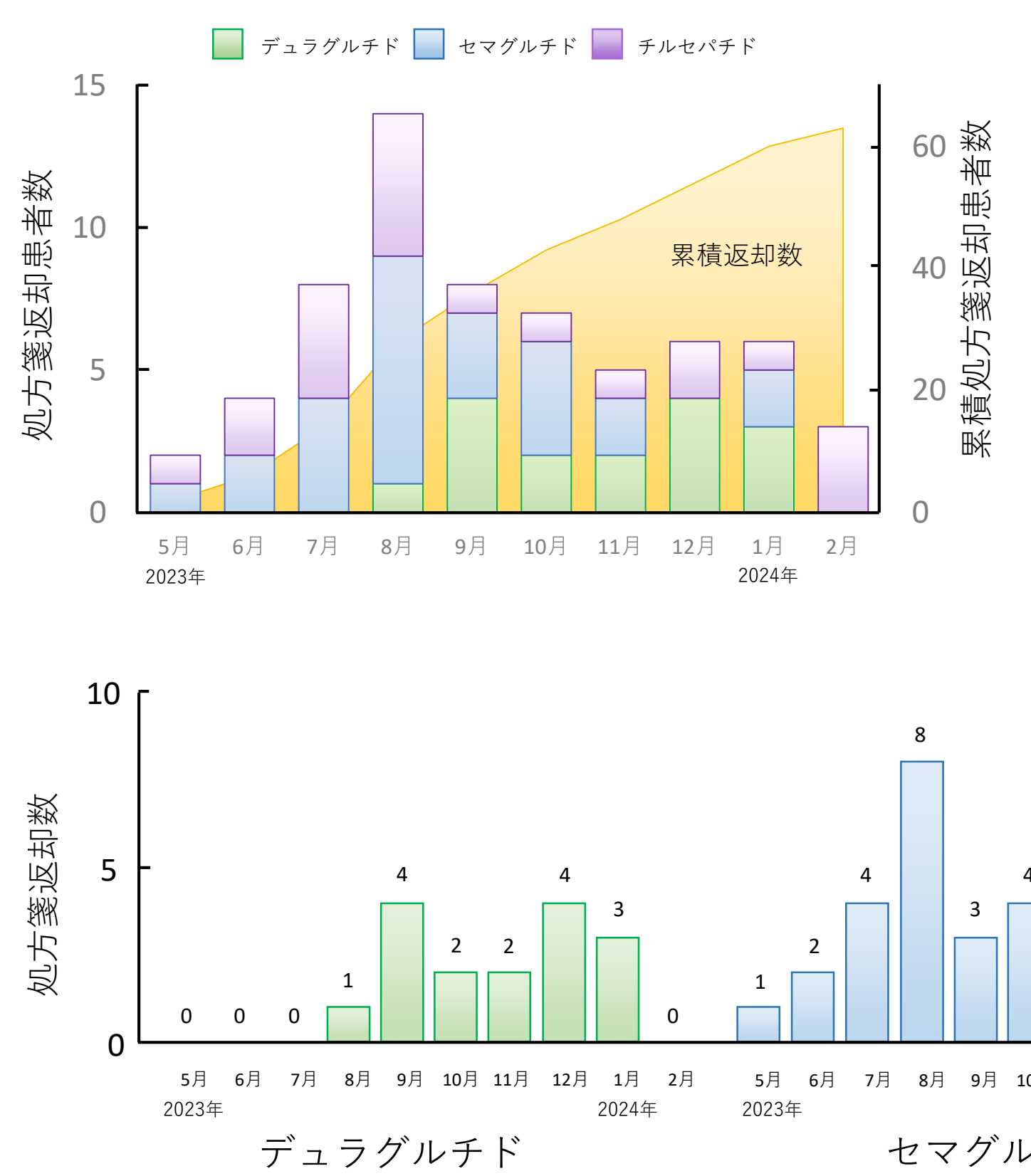


- ・全店宛てに送信された在庫移動要請kit数を集計(チルゼパチドは全規格を集計)
- ・2023年4月以前の在庫移動要請数は0件

二日おきに6kitの
在庫移動要請が発生

	総在庫移動要請数 (kit)	総要請件数	平均要請数
デュラグルチド	631	107	5.9
セマグルチド	65	21	3.1
チルゼパチド	53	24	2.2
総数	749	152	

処方箋返却患者数



- ・GLP-1受容体作動薬の出荷調整が原因で処方箋を患者に返却した患者数を全店の日報より抽出
- ・事前に受付を断ったケースは含まれない

	総処方箋返却患者数
デュラグルチド	16
セマグルチド	26
チルゼパチド	21
総数	63

03. 処方代替提案システムの構築

出荷調整に伴う不足薬発生

- ・患者が処方箋の期限(4日以内)に患者が薬を在庫している薬局を見つけなければならない。
- ・糖尿病門前薬局でさえも不足。
- ・処方箋返却数は2023年10月時点で43名。
- ・薬局薬剤師が抱える処方提案への不安。

薬局単体での対応の限界

治療中断の恐れ

本取組

- ・代替薬提案の仕組みを構築
- ・担当調剤薬局への代替薬の提案
- ・担当調剤薬局へ提案根拠の共有

担当調剤薬局より処方医に治療継続に重きをおいた情報提供

治療継続に繋げる

GLP-1受容体作動薬製剤の在庫移動要請を行った薬局より患者情報を収集(2023年10月21日～)

年齢 性別 処方内容 DMの病型	腎機能 合併症 直近のHbA1c BMI or 肥満の有無
---------------------------	--

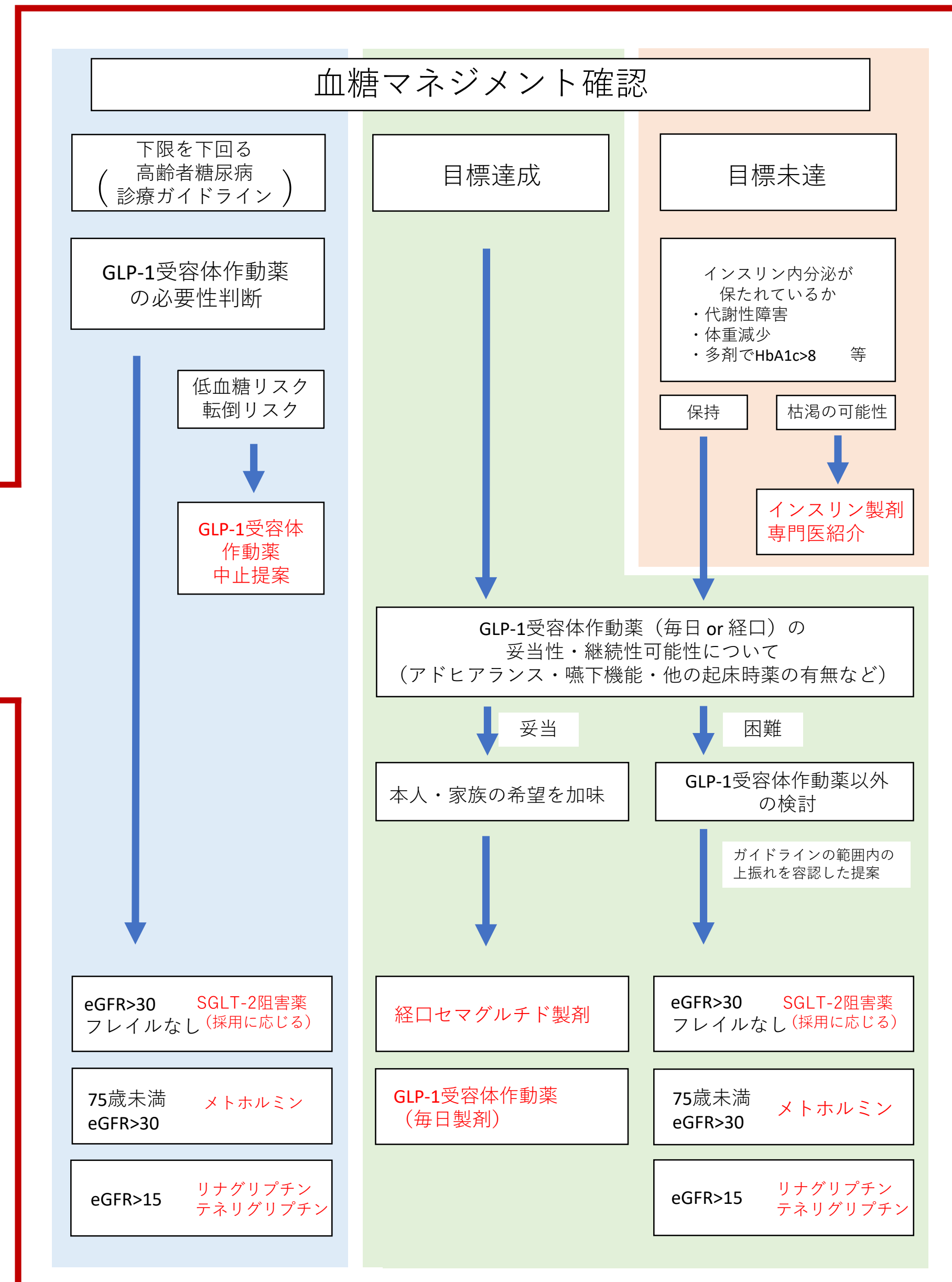
在庫移動要請を行った45薬局全てに代替薬提案を打診。11薬局より計16名分の患者情報共有

代替薬提案
提案根拠の共有

保険薬局から
処方医へ情報提供

処方変更

治療継続



04. 治療継続に至った一例

症例

患者背景

93歳 男性 体重 46-50kg
現疾患：2型糖尿病、前立腺肥大、うつ血性心不全、認知症、既往：新型コロナウイルス感染症アレルギー歴：なし
腎機能およびHbA1c：代理のため不明

訪問診療、薬は家族管理

- ・ワルファリン錠 1.5mg
- ・ドネペジル塩酸塩OD錠 5mg
- ・フェブキシナタット錠 10mg
- ・アムロジピン錠 5mg
- ・フロセミド錠 20mg (体重48kg以上でフロセミド20mg追加)
- ・ラベプラゾール錠 10mg
- ・アルバスタテン錠 10mg
- ・アゾセミド錠 30mg
- ・レベチラセタム錠 500mg
- ・メコパミン錠 500μg
- ・硫酸鉄錠 105mg
- ・サクビトリルバルサルタン錠 100mg
- ・シロシン錠 2mg
- ・シロスタゾールOD錠 100mg

経過

- X日 患者家族にデュラグルチド交付薬局の在庫消尽
- X+1日 担当薬局よりデュラグルチドの全店宛て在庫移動要請メール発信
- X+4日 他店より反応ないため、在庫移動要請メール発信
- X+7日 担当調剤薬局に相談窓口より処方変更および、避けるべき変更例の共有担当調剤薬局より主治医に情報提供
- X+14日 デュラグルチドからリナグリプチン錠5mgに変更
- X+29日 主治医より血糖値問題なしとのこと
- X+42日 同上
- X+57日 デュラグルチド納入に伴いリナグリプチン錠5mgからデュラグルチドに変更

担当調剤薬局への情報提供

HbA1cおよびeGFRが不明のため医師側の把握している検査値に依存。

処方変更案

○リナグリプチン錠5mg：高齢者糖尿病ガイドラインカテゴリIIIに準じた提案。

○デュラグルチドの中止のみ：血糖のコントロールが十分に達成できている場合に限る。

避けたほうが良い変更案

○メトホルミン：食事・水分摂取が十分かつ、eGFRが30以上あるケースでは推奨されるが、本症例は高齢かつ認知症のため乳酸アシドーシスの可能性に加え、症状の訴えが難しいことが考えられるため。

○経口セマグルチド製剤：食欲不振や悪心、嘔気等の消化器症状が25%で現れるため。本症例のような高齢低体重症例では、摂取カロリーの低下→筋肉量の低下→ADL低下をきたすおそれがあるため。

05. 考察

処方代替提案システムを活用によるGLP-1受容体作動薬の処方変更提案が行われ、治療継続が達成された。症例では、出荷調整に伴う薬剤変更の期間中、血糖値の悪化は報告されなかった。また、本取り組みにより11薬局に対し計16名分の代替薬提案を共有、その提案根拠を提示した。

チェーンドラッグストアの強みを生かした出荷調整に対する処方提案の仕組みは、GLP-1受容体作動薬の不足問題に限らず、患者の治療継続を達成に有効であると考えられる。また、症例を蓄積し、研修等に活用することで、薬剤師の処方提案力の向上にも寄与できると考えられる。

日本糖尿病学会
COI 開示

発表者名：◎飯田誠之、森田肇、村田美香、佐藤聡太、(◎研究代表者)

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業はありません。